

研修レポート

大連市公務研修生 韓 静

時間がたつのは本当に早いもので、最初、一年間はとても長いものを感じられましたが、実際に研修の生活が始まってみると、あっという間の1年間で、とっても短かったです。

幸いに私は伊万里市と大連市の交流事業の参加者になって、公務研修生として、伊万里に来て、日本の歴史、文化、風俗習慣などに触れ、すごく貴重な経験となりました。この一年間の研修生活を振り返ってみると、多くの思い出ができて、本当に楽しく充実した毎日を過ごすことができ、伊万里での研修経験は私の一生の宝物です。感想を報告させていただきます。

1、庁内での研修

私は7月から8月まで、また10月から11月にかけて、庁内の業務課20課及び25係で行政関係の業務を研修しました。各部門の業務説明と現場視察によって、伊万里市役所の仕事の内容を全般的に知ることができました。中国と違うところや驚いたこともあります。学ぶべきことの方が多く見つかりました。例えば、日本の消防署の仕事は消火だけでなく、救急も担当していることは中国と違います。中国の救急車は病院の救急センターに属していて有料です。また、市民課の総合窓口では違う部門の仕事もまとめて、ほとんどの届けができるという業務範囲の広さに驚きました。中国では戸籍関係と旅券の仕事は別々で公安局戸籍警察と出入国管理局の仕事です。一方、日常生活に密接な生活ごみの処理について、ゴミの分別、収集方法や浄水場の優れた技術も帰国後大連の関係部門に紹介して、市民の生活にうまく活かせることを期待しています。



伊万里市役所の「さわやか市政」というキャッチフレーズや職員の「大きいサービス、小さな経費、大きい目的、貴い節約」など行動指針に実感があり、日常業務のやり方、管理の方法などを勉強して、これから私の仕事にプラスになるものであり、活かしていきたいと思います。

2、見学

中国語で「百聞不如一见（百聞は一見に如かず）」という諺があります。市役所が提供した機会のほかに、自習研修としても、市内、県内、県外の見学によって、伊万里だけではなく、佐賀県及び日本の歴史や文化、風俗習慣の素晴らしさを実感しました。

市内の研修を通じて、私の足跡は南の青螺山、黒髪山から北の波多津にかけて、西の東山代川内野から東田代の井手口川ダム、松浦町まで残っています。伊万里の綺麗な自然の景色を満喫し、伊万里の歴史や文化について全面的に理解できました。伊万里での生活は四季のいろいろな花が見られる花園のなかで生活しているような感じがするし、町は緑一杯の山に囲まれて、山水画のなかに居るような感じがします。人間が大自然と調和している環境は「世外の桃源（ユートピア）」のように感じました。絵ハガキのような大川内山、美しい伊万里湾大橋、素晴らしい鍋島焼、伊万里のすべての景色はもう私の記憶に深く刻まれています。

県内見学では、有田陶器市の賑やかさ、唐津の見帰り滝の見事なあじさい、佐賀市のバルーンフェスタ、武雄の御船山の紅葉などが印象に残っています。

そのほか、一番印象深いのは京都で、金閣寺、祇園、嵐山、比叡山などを巡りながら日本の伝統、文化を体験できました。昔から日本と中国の縁が深いということを感じました。沖縄は日本、中国、アメリカ、沖縄本島の文化をうまく融合している印象が残っています。



長崎平和公園

3、中国語教室講師を担当



授業の様子

4月から約半年間中国語教室の講師を担当しました。深い交流のチャンスを与えられ、ほとんど経験がありませんが、できるだけ分かりやすく教えるように、いろいろと工夫を凝らして準備して、最後まで順調に進みました。受講生の皆さんの中国語に対する興味の深さと勉強のまじめさに感動しました。自分の国の文化や風俗

習慣などを紹介し、また、皆さんからも日本のこと、伊万里のことを教えてもらいました。お互いに両国のことについて深く理解し、いい交流になりました。



餃子づくり

4、各種イベントと交流活動参加、たくさんの友達との出会い

この1年間いろいろなことを勉強したり、各種のイベントに参加したり、たくさんの市民と交流しました。皆さんのおかげで、異国にいる私が日本に在る間に、できるだけ日本のことを味わうために、いろいろ助けていただきました。春には「フルーツの里 正月体験」、「梅祭り」に参加しました。夏の「図書館星まつり」

図書館でのボランティア体験



では市民ボランティアとして参加し、私も伊万里市民の一人として、自分の図書館のために、何か役割を果たす感じがしました。秋には浴衣を着せてもらって、伊万里秋祭りの総踊りに参加出来てすごく楽しかったです。また、茶道の「お呈茶」や「茶会」などを体験し、「茶道とは、一定の作法にのっとりお茶を飲むだけでなく、美術、詩歌、書画、生花、

茶室建築や造園、菓子に至るまで幅広い分野にまたがる総合芸術だ」ということが分かりました。茶道から日本の茶文化の美しさを感じました。同時にイベントを通して、たくさんの方と出会いました。日本語の「一期一会」という言葉から、人との出会いを大切にすることを学びました。伊万里の皆さんは私に大変親切で、私のことを一人の外国人ではなく、友達のように接していただいたこと、心から感謝します。私の感動の引き出しはずでにいっぱいになっていて、これからの私の人生の貴重な糧になると思います。



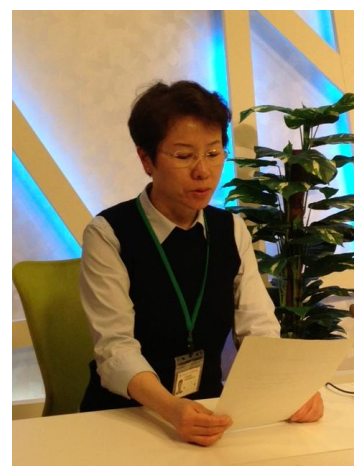
お呈茶体験



伊万里で出会った市役所の皆さんや友人たちなど、多くの人と離れることが本当にさびしいです。たいへん優しく接してくれた伊万里の皆様にとっても感謝しています。また、このようなご縁を絶対忘れません。伊万里で学んだものは私にとって、至宝と言えるでしょう。これからの仕事によく活かしていきたいと思います。

帰国後は自分の目で見、自分の心で感じた日本のこと、伊万里のいいところを大連の皆さんにどんどん紹介したいと思っています。日中関係は今の時期ちょっと厳しいですが、自分の力は小さくても、自分から回りの人に伝え、それが次から次へとたくさんの人々に伝わり、必ずお互いの心を温めて、氷を解かし、仲良くなれると信じています。これも私のこれからの課題として頑張りたいと思います。中日友好が世代代、末長く続くように、心からお祈りします。

伊万里の皆様、大変お世話になりました。



ケーブルテレビで初収録